



令和6年3月5日

広島大学、海上保安大学校と全国5つの商船系高等専門学校で 交流と連携・協力の推進に関する包括協定を締結します

情報提供

広島大学、海上保安大学校、商船系高等専門学校（富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校、弓削商船高等専門学校）は、下記のとおり交流と連携・協力の推進に関する包括協定を締結します。

我が国初となる海洋・海事系教育研究機関7者による包括協定を締結し、連携を深めることで、海洋・海事に関する専門人材育成など、教育・研究の一層の進展を目指します。

協定調印式の概要

日時：2024年3月14日（木）14:15～15:00

場所：海上保安大学校 練習船「こじま」甲板

（停泊場所：広島県呉市呉港川原石地区）

出席者：広島大学	学長	越智 光夫
海上保安大学校	大学校長	江口 満
富山高等専門学校	校長	國枝 佳明
	（代理 副校長	山本 桂一郎）
鳥羽商船高等専門学校	校長	和泉 充
広島商船高等専門学校	校長	河口 信義
大島商船高等専門学校	校長	古莊 雅生
弓削商船高等専門学校	校長	石田 邦光

式次第：1. 調印式

- ・趣旨説明
- ・調印
- ・挨拶
- ・来賓祝辞

2. 記者会見



【お問い合わせ先】

広島大学 学術・社会連携室地域連携部 三戸
TEL 082-424-5871 E-mail chiikirenkei@office.hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 4枚（本票含む）



(別紙)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学 広報室 行

広島大学、海上保安大学校と全国5つの商船系高等専門学校で
交流と連携・協力の推進に関する包括協定を締結します

日時：2024年3月14日（木）14:15～15:00

場所：海上保安大学校 練習船「こじま」甲板

（停泊場所：広島県呉市呉港川原石地区）

☐ ご出席

☐ ご欠席

貴社名 _____

部署名 _____

ご芳名 _____（計 名）

電話番号 _____

※ 誠に恐れ入りますが、上記にご記入いただき3月13日（水）16時までにお申し込みください。

<協定調印式場所>



第 164 回 学長定例記者会見 発表事項 1（抜粋）

令和 6 年 2 月 27 日

**広島大学、海上保安大学校と全国 5 つの商船系高等専門学校で
交流と連携・協力の推進に関する包括協定を締結します**

広島大学、海上保安大学校、商船系高等専門学校（富山高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、広島商船高等専門学校、大島商船高等専門学校、弓削商船高等専門学校）の 7 者は、下記のとおり交流と連携・協力の推進に関する包括協定を締結します。

記

背景・目的

2023 年 7 月に、呉市、海上保安大学校、笹川平和財団と、広島大学の 4 者は、呉市におけるアジアの海洋・海事の国際的拠点の形成と地域社会の活性化を図るため Town & Gown 構想推進に向けた協定を締結し、産学官がともに発展していく取組をスタートしています。

その一方で、海洋立国を支える専門人材の育成と確保は、産学官共通の深刻な課題となっています。

このたび協定を締結する 7 者による、それぞれの強みを生かした連携体制を基盤として、地域の企業などからの協力も得て、「海洋文化都市くれ」を中心とした、実践と学術の融合による文理融合型の海洋・海事人材を育成し、海洋科学技術イノベーションと海洋・海事産業の活性化を促進する教育・研究拠点の形成を目指します。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室地域連携部
chiikirenkei@office.hiroshima-u.ac.jp
TEL:082-424-5871



連携による教育・研究面の効果

■海(うみ)に関わる国内外の課題と社会的要請

- 海を繋ぐ ➡ 国内外の海上輸送・次世代船に関する課題解決(貿易:約99%は海上輸送)
- 海を知る ➡ 海洋状況把握(気象/海象・気候変動等)に関する課題解決
- 海の安全 ➡ 海上交通の管制・制御, 海難事故・救助, 海上保安・セキュリティに関する課題解決
- 海の減災 ➡ 津波・高潮, 異常波, 潮流, 潮位変動による海の自然災害に関する課題解決
- 海の環境 ➡ 海洋生態系, 海洋汚染, 環境保全に関する課題解決
- 海のCN ➡ カーボンニュートラル(脱炭素化)とカーボンクレジットに関する課題解決
- 海の利用 ➡ 水産漁業の活性化, 海洋エネルギー利用, 観光業(海のアクティビティ等)に関する課題解決

■研究面の効果(分野)

- 海上交通モビリティ推進(自動運航船, ゼロエミッション船, 海上モビリティなど)
- 海洋・海事ロジスティクス(海上・港湾・陸上を繋ぐ物流イノベーションなど)
- 海洋・海事モニタリング(衛星リモートセンシング, 海洋情報センシング, ドローン開発・利用など)
- 海洋・海事デジタルツイン(流体, 構造・材料, 設計・生産・建造分野のDX化など)
- 海洋・海事レジリエンス(海上安全, 海事災害, サイバーセキュリティなど)
- 海洋情報データサイエンスの予測(海象の現状把握と予測に関わるデータサイエンスなど)

* 7つの練習船、国内最大クラスの実験施設(風洞、曳航水槽、回流水槽、造波水槽)、最先端の海上安全・操船シミュレーター、瀬戸内CN国際共同研究センター施設の共同利用

■教育面の効果(人材供給)

- 海に関する学術×実学の融合・連携による有為な人材育成・輩出
- 海に携わるジェネラリスト/スペシャリスト/グローバル人材の育成(技術者・研究者・行政官・国際機関職員など)
- リカレント・リスキリングによる海洋DX人材(地方共創の場で活躍する人材確保・育成)
- 次世代を担う子供・若者に対する海洋・海事分野の教育推進と魅力向上・発信(モノづくり体験教室, 海洋教育フォーラム/セミナーの開催, 海博, インターンシップ事業の拡大・推進)
- 広島大学大学院文理融合型海事系(新)学位プログラム(英語による学位修得)への発展